

若手年度集会

ときわ会が150周年を迎えた節目の年に、「若手年度集会」を開催した平成26年度『紡の会』の皆さん、集会の大成功おめでとうございます。集会のテーマを「みんなで紡げ 多様な糸を！」とし、ときわ会会長 白石誠史郎様をはじめ、多くの御来賓の皆様から見守られ、盛大な研修集会が開催されたと実行委員長である関田有佑先生から伺いました。今後は、若手年度集会の成果を生かし、仲間と共に多様な糸を紡いで教師力を高めていくことを期待しています。

私たちの年度『無井の会』が若手年度集会を開催したのは、今から30年も昔に遡ります。かすかな記憶と実行委員だった仲間の話をもとに、少しだけ振り返ってみます。

| |
|-------------|
| 無井の会 若手年度集会 |
|-------------|

【若手年度集会の研修テーマ】

「一日子どもを体験しよう！」

○ 第1部 有田和正先生から学ぶ！

小学校社会科の授業実践を研究する者で、知らぬ人のいない憧れの人、有田和正先生をお招きし、NEXT21 大ホールのステージで各年度の若手40人を相手に模擬授業をしていただきました。名人の授業から有田実践の神髄を垣間見ることができました。

○ 第2部 一日子どもを体験しよう！

県内のブロックごとに教科を設定し、当日参加した若手会員450人を相手にユニークな模擬授業を行いました。音楽を選択したブロックは、あの当時、爆発的にブレイクしたシンセサイザーを使った模擬授業でした。YMOの「テクノポリス」や「ライディーン」が大ヒットしていました。最近、YMOの坂本龍一さんや高橋幸宏さんが逝去されたのは寂しい限りです。

私が当時いた魚沼ブロックは、体育を選択し、奥只見から大量の雪を新潟市内の学校に運んで、クロスカントリースキーのワックス講習授業をしました。12月最初の日曜日に雪がまったくない市内の学校の校庭を雪で埋め尽くすなんて、馬鹿げたことをやったなと思います。体験終了後に会場校の教頭先生から「この雪は、ちゃんと片付けるんだろうな。」とクレームをいただいて困っていたら、後から来た会場校の校長先生から「こんなにたくさんの雪、明日子どもたちが喜んで遊ぶよ。」という嬉しい言葉をいただき、一件落着でした。そんな私たちが負けたと思ったのは、理科を選択して、豚の解剖実験をしたブロックです。豚の腸や肺を持ち込んで、解剖の模擬授業をしたというのには、感心を通り越してあきれました。

今のように、LINEやMAILなどが無い時代です。若手年度集会を強烈に印象づけるため、ウチワで開催案内の葉書を作り若手会員に送付したことは、ナイスアイデアでした。無井の会若手年度集会の実行委員長を務めていただいた川上弘宜先生、ありがとうございました。いつもより少し短い秋でしたが、紡の会「若手年度集会」に刺激され、若かりし頃を懐かしく思い出しました。

東蒲・五泉支部 副支部長 高松 豊